

## 第2回緑の基本計画検討部会 摘録

### 1 開催日時

令和6年7月22日（月）午後3時15分～5時15分

### 2 開催場所

京都市役所分庁舎3階 建設局大会議室

### 3 出席者（五十音順、敬称略）

委員

7名出席（欠席なし）

委員 天野 晴美

委員 井原 縁

委員 谷 萌子

委員 内藤 光里

委員 深町 加津枝（会長）

委員 町田 誠

委員 山田 豊久

事務局

建設局みどり政策推進室

室長 永田 盛士

事業促進担当部長 朝山 勝人

みどり企画課長 山本 真史

担当係長 兼村 星志

### 4 次第

(1) 開会

(2) 議題

- ・基本理念、基本方針の案文等の検討
- ・将来像、目標及び紙面の方向性の検討

(3) 閉会

## 5 会議録 <委：委員、事：事務局>

### 議題：計画期間について

委：

今の段階で計画期間を定めるより、全体の中で収まりの良い期間を検討するのは良い。検討中の長期ビジョンに応じて、策定期間を後ろにずらすことも、合理的な内容だと思う。

委：

計画期間について、現時点では結論を出さず、保留とする。

### 議題：基本理念、基本方針の方向性

委：

基本方針3に「安全」という文言が入っており、視点は「文化・暮らし・経済」という見出しで良いのか。基本方針1の「公民連携・マネジメント」という言葉だと、方法論のように感じる。各基本方針に対する視点の記述については、工夫の余地があるのではないか。

委：

「文化」の視点が基本方針1、3にもあるが、参考資料の基本方針1の「文化」については、暮らしに焦点を置いた定義を挙げており、基本方針3の要素も入ると思う。例えば基本方針3を「生活・文化の視点」とし、基本方針1の「文化」の定義を変えることにより、「公民連携・マネジメントの視点」が浮いているところを緩和できないか。「文化」の定義を幅広く捉える、あるいは分節化して整理して、視点に取り入れてはどうか。基本方針1、2、3の案文については、事務局の案で全く異論はない。

委：

基本方針1の「公民連携・マネジメントの視点」は、市民目線では、具体性がわからない。もう少しわかりやすい言葉だとイメージできるのではないか。

委：

事務局は、どのような意図で基本方針1、2、3の順番を配置したのか。

事：

基本方針1は「庭園文化都市」の「都市」、基本方針2は「持続可能なまち」の「まち」、基本方針3は「暮らし」ということで、規模感順に並べた。ご指摘を踏まえ、もう少し考える必要がある。

委：

基本方針2に「あらゆるいのちに寄り添い」とあるが、外来生物や外来植物などを含めた表現になっているのはどうかと思う。

委：

「あらゆるいのち」を、前回の「豊かないのち」に戻してはどうか。

事：

基本方針3で「豊かな」という言葉を使っているので、工夫したい。

委：

基本方針1は基本理念にかなり近い。基本方針1は「後世に庭園文化都市をつなぐ みどりとひとの輪を広げる」にした方が、公民連携のように、繋がりが広がりのお話ということがメッセージとして伝わりやすいのではないかな。

委：

基本方針2の「あらゆるいのち」は「多様ないのち」にすれば、生物多様性のニュアンスもあり、代案としては良いのではないかな。基本方針1は、「連携の視点」とし連携だけをピックアップするのも良いのではないかな。

## 議題：将来像の方向性

委：

俯瞰図が上手く伝わるのかが、図を見てみないとわからない。イメージ図は、朝から晩まで、春から冬までといった生活感や時間の概念を感じさせるようなイメージが入ると良い。

委：

この俯瞰図では、市街地の部分にほとんどみどりが無いように感じる。イメージ図にみどりを楽しむという幸せや幸福、笑顔などの言葉があると良い。

委：

この俯瞰図では、みどりが少なく見え、見づらいので工夫が必要ではないか。デジタル媒体でわかりやすく伝えられないか。

委：

俯瞰図に二次元コードをつけて映像などを見れると良い。市街地にも、植物園などのみどりがあることがわかると良い。

委：

Googlemap の俯瞰図は、暗くて分かりにくい。イメージ図は、次の世代に繋げていけるような、皆でみどりを楽しめるような言葉が入ると良い。

委：

俯瞰図は、もう少し拡大し、下からの地形がわかるアングルにしてはどうか。アイコンのような表現は必要なく、リアルを追求した方が訴求力は高いと思う。配置図は、名古屋市のようにフォーカスした配置図とイメージ図を掛け合わせる工夫もあるのではないか。イメージ図は、日常的・非日常的、カテゴリー、時間軸など様々な組み合わせで体系的に整理していくと、わかりやすくなり、3パターンぐらいに収まるかのではないか。

事：

楽しむ軸や機能別に分けて示すことを示唆いただいたと思うので、見やすさを重視し、今後提示できるように進めていきたい。

## 議題：目標の方向性

委：

可能であれば、自然的な要素とともにある暮らしの実感を図るような京都市らしい新たな指標がつかれないか。市街地にみどりが少ないという話があるが、河川の存在がとても大きくそのような感覚はない気がする。本計画での歴史的な町並みや社寺境内地のカウントの仕方が気になる。

委：

住民の様々な観点の満足度や、実際にみどりの維持管理や活用に関わっている人々の満足度の評価を、より積極的に取り入れていくのが良いのではないかと。人に即した質的な満足度の評価と定量的な評価の比率を、段階的に試してみて、計画の中間見直し等でブラッシュアップしていくやり方もあるのではないかと。

委：

多くの費用や労力がかかるアンケートは難しいが、既存の総合的な市政アンケートの結果からみどりの満足度のみを引用すると、一面的な評価になる懸念もあるため、様々な角度から工夫する必要がある。

委：

目標を達成した際に、市民にそれをどのように実感してもらうか。緑被率、緑視率などはわかりにくく、数値が上がると市民にとってどうなるか具体的なイメージがあった方がわかりやすい。

委：

みどりが増えることによって質として高まっていくという実感が、必ずしも持続的に反映されるわけではないので、満足度などの実感に繋がるような指標が必要ではないかと。

委：

目標を達成した後は、それで終了するのか、維持していくのか、更に上を目指すのかが気になる。

事：

みどりを増やし続ける、いわゆる量だけでなく、みどりの質の向上も重要であり、バランスを踏まえながら、次に何をを目指すのかを、部会や審議会で検討していただきたい。

委：

昭和 50 年代は国で物理的な目標値を定め、全国一律でその数値を目指してきた。今は地域の実態に合わせてどこまで目指していけば良いかという時代になっている。新しい指標は、市民の暮らしやすさなど、質的なものに変えていくように近づけると良い。

委：

目標は、行政が実施していることをチェックするためのものではない。今回の計画では、行政や市民が一緒になって、みどりとともにある暮らしに取り組んでいる現状を、定性的な部分から把握するためのものである。数字やレーダーチャートを活用して示すうえで、評価項目は多い方が良いのではないか。

委：

質の向上を目指すのは賛成である。アウトカムの部分を測ることを考えると、ランダムに市民を対象にアンケートで聞いてみる評価の方法がある。

委：

新しい指標は難しい。一人当たり都市公園面積を 10 m<sup>2</sup>以上とする基準は、人口が少ないほど達成しやすく、人口約 144 万人である京都市では達成が難しいと思う。緑視率とあるが、鴨川に行くまでの道には鉢植えや生け垣もあり、自分ではみどりが少ないとあまり思ったことがない。満足度という点から、緑視率を軸とした指標を考えても良いのではないか。

事：

1992 年に「京都市民の緑の満足度に関する研究」という造園学会の論文で、京都市のみどりの感じ方として、みどりが少ないと聞いたことがないという回答があった。公園以外の様々なみどりを市民が感じているという京都市ならではのポイントを使いながら、指標として評価していく方向で考えていきたい。

委：

地域ごとの違いはとても重要である。

## 総括：紙面の方向性について

委：

アプローチの方向性としてはすごく良い。京都市のホームページで「みどりの基本計画」を見れば、別の内容や、知りたいことをフォーカスしても見ることができる、といった工夫もしてくれると更に良い。

委：

紙面については、ビジュアルのインパクトがとてもあり、より市民が手に取りやすい内容になっている。

委：

写真がメインで、プロが撮影したような写真で美しく、とても良い。

委：

例えば、紙面の「紙」を「視」に変えてはどうか。様々な写真があるので、QRコードを載せるといった工夫をしても良いのではないか。

事：

PDF化し、ホームページでの公開は可能だと思う。その他のご意見については、引き続き検討させていただきたい。

委：

写真集のようで見やすく、早くできあがって欲しい。

委：

紙面のイメージは素敵だと思う。世界遺産、史跡、名勝、寺院、神社をどのように属性分析するかが気になる。自然的な名勝、御苑など、どこの写真を入れるかを検討する必要がある。また世界遺産や史跡・名勝は、個々の場所に対する価値評価をして守るシステムの話であり、少しフェーズの違うものが混ざっているため、取捨選択が必要ではないか。例えば、疎水や田園写真について、綺麗なものを載せるか、実態に近いものを載せるか、写真選びについても検討が必要である。

委：

綺麗な写真のイメージを目指すというメッセージが強く伝わると良い。もっと自分たちのプライドの高い地域づくりをしていくんだというようなメッセージ性を目標や指標に取り入れて欲しい。

委：

期待を込めて美しい写真を使っていけばどうかと思う。

事：

原案は、手持ちの写真を一旦入れたという状態なので、どういう属性で切り取るか、どの写真を撮るか、どんな思いを込めるかは、検討したい。一部の写真は、京都府市での写真コンクールで、一般市民等の方々が撮影したものである。

委：

市民らが撮影した写真を使うのはすごく良い。

事：

今まで写真コンクールは 37 回開催されており、その蓄積した写真も活かせば、より京都市らしくなると思うので、引き続き検討していく。

(以上)